

感冒罹患時のセルフメディケーションに関する看護師の意識調査

筑波大学附属病院総合診療科 病院講師 釋 文雄

研究協力者 堤 円香、宮澤 麻子、高木 博、高屋敷 明由美

(〒305 - 8575 茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL : 029-853-3189)

要旨

対症療法で軽快が見込める軽症患者に対し、まず市販薬による対応を行い、受療せずにセルフメディケーションを行う流れを推進させる目的で、昨年度は感冒罹患時の対応に関し、患者・健診受診者を対象として調査を行った。

昨年度の結果をふまえ、今年度は患者から疾患に関して相談を受けることの多い看護師を対象とし、感冒罹患時の対応に関する看護師の意識を知るために

I) 看護師自らが感冒に罹患した時の対応

II) 感冒に罹患した患者に対する対応

に関して調査した。

対象は全国 16 箇所の医療機関で勤務を行っている 821 名の看護師で、同意が得られた 667 名に関して解析をおこなった。

自ら感冒にかかった場合にまず医療機関受診にするかどうかに対する回答では、「医療機関をまず受診する」が 11.7%、「すぐには医療機関を受診しない」が 86.5%で、「医療機関を受診する」理由として、「医療機関を受診すると早く治るから」、「医師に診てもらいと安心だから」、「医療機関に勤務しているから」の項目に関して「あてはまる」が多い結果となった。

自ら感冒にかかった際に市販薬を使用するかどうかの質問に対する回答では、「市販薬を使用する」が 60.9%、「市販薬を使用しない」が 29.2%となり、市販薬を使用しない理由として、「家に適当な薬がないから」の回答が比較的多かった。今回対象とした看護師は「感冒に罹患した際、市販薬を使用し、医療機関には受診せずにセルフマネジメントを行う」場合の多いことが明らかになった。

患者から感冒にかかった際の対応を尋ねられた場合は、「すぐ医療機関を受診するよう勧める」と「まずセルフメディケーションを勧める」はほぼ互角の回答数となった。このうち「すぐに医療機関を受診するよう勧める」理由としては、「状態・症状に合ったものが使えるか心配だから」、「他の薬との飲み合わせが心配だから」、「どの市販薬を選べばよいか難しいから」が多く、一方、少ない項目としては、「市販薬は有効な成分が少ない気がするから」、「市販薬は効かないから」が挙げられた。「まずセルフケアを行うよう勧める」理由は、「日常生活の工夫(栄養・休養・睡眠等)の方が重要だから」、

「病院へ行くより休養を優先したほうがいいから」、「病院に来ると他の感染症がうつることがあるから」が多い結果であった。看護師としては感冒に罹患した患者に対して「どのような薬を勧めればよいか不安があるために医療機関の受診を勧める」傾向のあることが明らかになった。

これらの結果から、「看護師は市販薬を評価しているものの、自信をもって感冒罹患患者に市販薬の使用を勧めることができていない状況にある。今後、看護師と地域に密着した薬局の薬剤師が連携することにより、医療機関を受診しなくとも感冒罹患患者はセルフメディケーションを行える可能性がある」ことがうかがえた。

QOL とセルフメディケーション行動との関連に関する調査では、セルフメディケーションは自らの行動および患者への対応に関しても生活関連 QOL と密接に関連があり、セルフメディケーション行動は、QOL 改善にもつなげる要素である可能性が考えられた。

セルフメディケーション行動と QOL との関連は今後のよりよい医療を考える一つの指針となる可能性も今回の調査で示唆された。

1)調査研究の背景・目的

プライマリ・ケアにおいて臨床的に診ることが最も多い感冒（かぜ症候群）は、必ずしも医療機関における医療を必要とせずセルフメディケーションで十分であるが、実際には多くの患者が医療機関を受診し、対症療法として薬剤の処方が行われている。

対症療法でも軽快が見込める軽症患者による受診を軽減させ、まずセルフメディケーションを行い、受療行動をコントロールことが出来れば、時間の節約になり、医療機関内における 2 次感染も防ぐことができる。さらに医療経済学的観点からも、医療費増大の問題に貢献でき、さらに、地域医療における医師・看護師不足問題への対応、また、質的医療向上の面からも期待される。

軽症患者の受療行動をコントロールするためのステップとして、感冒罹患時の対応に焦点を当て、2012 年度には、感冒罹患時にセルフメディケーションを行う場合と、すぐに医療機関を受診する場合の意識背景に関し調査を行なった。この結果、市販薬（OTC 薬:Over the Counter drug）を使用せずに医療機関を受診した場合、その理由として、「医師に診てもらおうと安心だから」が 94%、「なんとなく病院に行った方がいい気がしたから」が 67.6%など感冒時の対応に関する不安が医療機関への受診を後押ししており、さらに「病院に行くと早く良くなるから」が 89.2%にも上ることを考えると、セルフメディケーション行動推進のためには、正しい知識の普及を行い、感冒の対応に関する不安を和らげていくことが重要であると考えられた。

この結果を踏まえ、今年度は、セルフメディケーション行動を推進するうえで、患者に直接対応する機会が多い看護師の認識に注目した調査が有用であると考えた。

過去の研究で、薬の料金、教育レベル、社会経済的要因、年齢、性差がセルフメディケーション行動に影響する要因として明らかになっているとともに、看護師を含むヘルスケアプロバイダーへの満足度も影響していることが報告されている¹⁾²⁾。セルフメディケーションを行う場合、17.6%は薬剤師からのアドバイスを受けているものの、21.9%は看護師など医師以外の健康に関わる専門家からのアドバイスを受けているという報告³⁾もある。さらに、患者は、薬に関して薬剤師からの医学的アドバイスに耳を傾けることが多いが、30-50歳の働き盛りの患者層は他の年齢層に比べ看護師からのアドバイスを受け入れる率が高いという報告⁴⁾もある。

これらのことから、医師、薬剤師と同様に薬に関して看護師の役割も今後増えることは確実である。加えて、実際に薬剤師によるOTCセルフメディケーションプログラムが構築されたのと同様、看護師に対するセルフメディケーションプログラムが開発されるべきであるとの報告⁵⁾もみうけられた。

このような背景も踏まえ、今回の調査では

- I) 看護師自らが感冒に罹患した時の対応（特に市販薬の使用状況、使用の有無）に対する実態評価および対処行動
- II) 感冒に罹患した患者に対する対応（声掛け・指導により市販薬の使用を勧めるか等）

に注目し、自らが感冒に罹患した場合の行動と、感冒に罹患した患者に対する行動の両面から調査を行った。

また、昨年度に我々が行った調査⁶⁾において、セルフメディケーション行動とQOLの程度には相関が認められていたため、今回もQOLの程度と感冒時の対処行動との関連にも注目し、看護師の心身の健康が患者に対する看護の質を保証する上で重要な課題であるもののその実態については明らかでない⁷⁾との過去の報告による指摘もふまえて、看護師のQOLと患者への指導とのかかわりに関しても明らかにする目的で調査を行った。

予想される医学上の貢献、および本研究課題の出口

看護師の感冒罹患に対するセルフメディケーションについての認識と行動、および感冒に罹患した患者への具体的な対応が明らかになる。

また、この調査により明らかとなった結果をふまえて、看護師側から患者へ効率的にセルフメディケーションを推進するよう働きかけるための方向性が示される。

感冒罹患時にセルフメディケーションを優先し、まずOTC薬を行う流れを作ることにより、時間の節約、医療機関内における2次感染防止、医療費増大問題への貢献、さら

に、地域医療における医師・看護師不足問題への対応や質的な医療の向上を進めることができる。

2)調査研究方法

研究デザイン：無記名自記式質問票を用いた横断研究

研究対象集団：医療機関（病院または診療所）に勤務している看護師

研究対象施設：北海道から沖縄にわたる計 16 医療機関

実施方法：対象施設の看護部長、総看護師長、施設長等を通じ、その医療機関で勤務する看護師を対象として調査を依頼し、調査票を配布した。

調査票（別添資料）は記載ののち、調査票は封筒に密封して看護部長、総看護師長、施設長等を通じ回収した。

調査依頼に関して除外基準を設けた。

- ① 20 歳未満
- ② 同意の得られない者
- ③ その他 実施が困難な者

調査項目：

- ① 基本属性
- ② 自らが感冒にかかった際、市販薬を使用したか
- ③ 市販薬を使用した場合、その理由
- ④ 市販薬を使用しなかった場合の理由
- ⑤ 感冒に罹患した患者に対してセルフケアを勧め、セルフケアの指導を行うか
またその理由に関して
- ⑥ 生活関連 QOL(SF-8 質問紙:倫理審査委員会承認後に健康医療評価研究機構よりライセンスを取得)

解析：得られたデータに関して、感冒に罹患したときの市販薬の使用状況およびその理由に関して、感冒に罹患した場合の患者への対応に関して統計学的に解析した。
また、生活関連 QOL(SF-8)の質問項目とも合わせ、自らの受療行動・感冒罹患患者への対応と生活関連 QOL(SF-8)との関連性に関して比較検討した。

3)調査研究成果、考察、まとめ

全国 16 箇所の医療機関で勤務を行っている 821 名の看護師に調査票を配布し 675 名

から回収した（回収率 82.2%）。

このうち、性別・年齢が不明であった 8 名を除き、667 名に関して解析をおこなった。

基本属性（表 1）

平均年齢は 40.3 歳で、全体のうち 93.7%が女性であり、平均勤続年数は 16.7 年であった。

I) 看護師自身が感冒に罹患した際の行動に関して

A)自ら感冒にかかった場合にまず医療機関受診にするかどうか（調査票質問 2）に対する回答（図 1）では

医療機関をまず受診する 11.7%
すぐには医療機関を受診しない 86.5%
（無回答 1.8%）

「医療機関を受診しない」との回答が 86.5%となり、ほとんどの回答者が医療機関を受診せずに対応を行うという結果となった。

「医療機関を受診する」回答者に対して詳しく訪ねた結果、その理由としては（図 2）

医療機関を受診すると早く治るから 81%
医師に診てもらおうと安心だから 79%
医療機関に勤務しているから 73%

の項目に関して「あてはまる」が「あてはまらない」よりも多い結果となった。

B)自ら感冒にかかった際に市販薬を使用するかどうか（調査票質問 3 ①）の質問に対する回答では(図 3)、

市販薬を使用する 60.9%
市販薬を使用しない 29.2%
無回答 9.9%

で「使用する」が 60.9%認められた。

一方、自ら感冒にかかった際に「市販薬を使用しない」回答者に対して市販薬を使用しない理由に関して詳しく訪ねた（調査票質問3②）回答（図4）では、今回提示した質問項目の中で「あてはまる」が「あてはまらない」を上回った項目はなかったが、「家に適当な薬がないから」が44%と比較的「あてはまる」の回答が多かった。

A)と B)の結果を簡単にまとめると、今回対象とした看護師は自分自身が「感冒に罹患した際、市販薬を使用し、医療機関には受診せずにセルフマネジメントを行う」場合の多いことが明らかになった。

考察

看護師は一般市民と比較して医学的知識や疾患に対する知識が豊富で、それゆえ、昨年度我々が行った「感冒にて医療機関を受診した患者へのセルフメディケーションに関する意識調査」に比べると、感冒時に医療機関を受診する比率は低い結果となった。

一方、両者に共通した医療機関を受診する理由としては「安心感」がもっとも高く、安心感に関しては一般市民も看護師も同様の意識が働くと考えられた。

また、「医療機関を受診すると早くよくなるから」に関して、看護師を対象とした調査で「あてはまる」と回答した割合が高かったが、医学的知識のある看護師に対しては「早くよくなる」の意味合いとして「根本的に早くよくなる」および「症状が早くよくなる」の両者の意味合いが含まれており、このどちらであるかに関し、今回は質問を行っておらず、さらに詳しい質問が必要であったと考えられた。

市販薬を使用しない理由については、一つ一つ見ていくと、「市販薬は効かないから」「市販薬は有効な成分が少ない気がするから」の項目のうち「あてはまる」に回答した率は少なく、看護師は市販の感冒薬に信頼をおいていることが示唆された。これらの結果とともに「家に市販薬がないから」にあてはまると回答した割合が比較的高かったことを考えると、「市販薬の効果を評価しており、家に市販薬があれば感冒にかかった際に使用する」ことが予想された。

II) 患者から感冒にかかった際の対応を尋ねられた場合（調査票質問4）に関して

すぐ医療機関を受診するよう勧める	45.3%
まずセルフメディケーションを勧める	48.7%
(無回答)	6.0%

と、「受診を勧める」と「セルフメディケーションを勧める」はほぼ互角の結果となった（図5）。

このうち「すぐに医療機関を受診するよう勧める」理由（調査票質問5）の回答としては（図6）、

状態・症状に合ったものが使えるか心配だから 91%
他の薬との飲み合わせが心配だから 80%
どの市販薬を選べばよいか難しいから 72%

の理由について「あてはまる」が多く、一方、「あてはまる」が少ない項目としては

市販薬は有効な成分が少ない気がするから 28%

市販薬は効かないから 22%

が挙げられた。

すぐに医療機関を受診せず、「まずセルフケアを行うよう勧める」回答者の中で感冒罹患患者へ医療機関受診を勧めない理由（調査票質問6）の回答を詳しくみていくと（図7）

日常生活の工夫（栄養・休養・睡眠等）の方が重要だから 92%
病院へ行くより休養を優先したほうがいいから 75%
病院に来ると他の感染症がうつることがあるから 68%

が多い結果となった。

一方、「風邪は市販薬の対応で十分だから」は38%であった。

考察

上記の結果から、看護師としては感冒に罹患した患者に対して「どのような薬を勧めればよいか不安があるために医療機関の受診を勧める」傾向があることが明らかになった。

また、「看護師は市販薬を評価しているものの、自信をもって感冒罹患患者に市販薬の使用を勧めることができていないため、看護師と地域に密着した薬局の薬剤師が連携することにより、医療機関を受診しなくとも感冒罹患患者はセルフメディケーションを行える可能性がある」ことが今回の調査よりうかがえた。

まとめ（ⅠおよびⅡに関して）

看護師の行動としては、感冒に関して、自らの場合はセルフメディケーションを優先させることが多く、感冒はセルフメディケーションで十分と認識しているものの、患者に対しては医療機関の受診を勧める傾向が増加することが明らかになった。

その理由として、看護師の薬の適切な使用に関する不安から生じている可能性が考えられた。

特に、看護師の感冒罹患患者への対応として、「感冒罹患時には医療機関を受診するよりも日常生活の工夫を行うことが重要とはわかっているものの、「薬に対する自ら知識に関して不安があり、不安のために医療機関の受診を促してしまう」傾向がうかがえた。

地域に密着した薬局で薬剤師の配置が増えてきている現在、看護師と薬剤師の連携により、感冒罹患時のケアに関しては看護師がアドバイスし、市販薬の使用に関しては薬剤師が受け持つことで感冒罹患時にまず市販の感冒薬を使用する流れが加速できるものと考えられた。

今後、看護師と薬剤師の連携が進んでいけば、感冒をはじめとした、軽症でセルフメディケーションでの対応で十分な疾患に対しては、すぐに医療機関にかからず、市販薬での対応を行い、自宅に対応する流れも増やすことができるものと考えられた。

Ⅲ) 自ら感冒罹患時の対応と生活関連 QOL との関連（調査票質問 7）

「感冒罹患時に医療機関をまず受診する」回答者と「「すぐには医療機関を受診しない」回答者で SF-8 を使用して生活関連 QOL のスコアを比較したところ（表 2）

SF-8 の下位尺度のうち

日常役割機能(身体)

体の痛み

さらに サマリースコア身体

において「自らの感冒時にすぐに医療機関を受診しない」回答者では「すぐに受診する」回答者に比べてスコアは統計学的に有意 ($p < 0.005$) に高い結果となった。

Ⅳ) 感冒罹患患者への対応に関しては

「すぐ医療機関を受診するよう勧める」回答者と「まずセルフメディケーションを勧める」回答者で SF-8 を使用して生活関連 QOL のスコアを比較したところ（表 3）

SF-8 の下位尺度のうち

日常役割機能（身体）

体の痛み

全体的健康感

活力

日常役割機能（精神）

さらに サマリースコア身体

において「すぐに受診せずまずはセルフケアを行うよう勧める」回答者は「医療機関の受診を勧める」回答者に比べて統計学的に有意 ($p < 0.005$) にスコアが高い結果となった。

考察（ⅢおよびⅣに関して）

生活関連 QOL と感冒罹患時の行動、および感冒罹患患者への対応に関しては、下位尺度の一部で有意な差を認め、生活関連 QOL が高い回答者と感冒罹患時のセルフケア行動とは統計学的に相関のあることがこの研究で明らかになった。

これらの結果から考えると、感冒時にまずセルフケアを行い、感冒罹患患者にもセルフケアを勧める回答者は QOL の面で高いことが示唆され、この理由の一つとして、セルフケアを行う習慣により QOL の増進にもつながることが示唆された。

まとめ（ⅢおよびⅣに関して）

セルフメディケーションは自らの行動および患者への対応に関しても生活関連 QOL と密接に関連があり、セルフメディケーション行動は、QOL 改善にもつながる要素である可能性が考えられた。

セルフメディケーション行動と QOL との関連は今後のよりよい医療を考える一つの指針となる可能性も今回の調査で示唆された。

4、調査研究発表

学会発表（国内および国際）

1) 患者が風邪で医療機関を受診する理由～健診会場でのアンケート調査より～ 堤 円香、釋 文雄、宮澤 麻子、高木 博、高屋敷 明由美、前野 哲博 日本プライマリ・ケア連合学会 2013 年 5 月 18-19 日 仙台

2) Self-care behavior in case of common cold and quality of life among Japanese who attended periodic physical checkups. Fumio Shaku, Madoka Tsutsumi, Asako Miyazawa, Hiroshi Takagi, Ayumi Takayashiki. International College of Psychosomatic Medicine September 12 - 14, 2013 Lisbon

3) 患者が風邪で市販薬を使用せずに医療機関を受診する理由
～医療機関でのアンケート調査より～ 堤 円香、釋 文雄、宮澤 麻子、高木 博、
高屋敷 明由美、前野 哲博 日本プライマリ・ケア連合学会 2014年5月10-11日 岡山

5、引用文献

- 1) Figueiras A, Caamaño F, Gestal-Otero JJ. Sociodemographic factors related to self-medication in Spain. *Eur J Epidemiol.* 2000 Jan;16(1):19-26.
- 2) Habeeb GE Jr, Gearhart JG. Common patient symptoms: patterns of self-treatment and prevention. *J Miss State Med Assoc.* 1993 Jun;34(6):179-81.
- 3) Yousef AM, Al-Bakri AG, Bustanji Y, Wazaify M. Self-medication patterns in Amman, Jordan. *Pharm World Sci.* 2008 Jan;30(1):24-30.
- 4) Wilbur K, Salam SE, Mohammadi E. Patient perceptions of pharmacist roles in guiding self-medication of over-the-counter therapy in Qatar. *Patient Preference Adherence.* 2010 May 13;4:87-93.
- 5) Hansford D, Gill D, McLaren J, Krska J. A training package for primary care nurses in conducting medication review: their views and the resultant outputs. *J Clin Nurs.* 2009;18(8):1096-1104.
- 6) 釋文雄、堤円香、宮澤麻子、高木博、高屋敷明由美. 感冒に対する患者および健診受診者のセルフメディケーションに関する意識調査、平成24年度一般医薬品セルフメディケーション調査研究・啓発事業 報告書 (NO.7) 91-114, 2013
- 7) 上田恵美子, 古川文子, 小林敏生. スタッフナースの健康関連QOLに職業性ストレス要因, 緩衝要因, 個人要因が及ぼす影響. *日本看護研究学会雑誌* Vol. 29 No. 5 2006

SF-8 に関して

福原俊一, 鈴嶋よしみ. 健康関連 QOL 尺度 - SF-8 と SF-36. *医学の歩み.* 2005; 213:133-6

当調査は施行にあたり、筑波大学医の倫理審査委員会による承認を得ました。

調査票内容（実際の調査票からレイアウト変更しています）

質問1

あなた自身について教えてください。

- ① 性別 ・
- ② 資格
- ③ 勤務
- ④ 看護師としての臨床経験年数 年
- ⑤ 主に勤務している場所（複数可）
- ⑥ 現在、主に担当している科
- ⑦ 一緒に住んでいる家族の人数（自分を含めて） 人
- ⑧ 年齢 歳
- ⑨ 婚姻

以下の質問について、あてはまるものを○で囲むか、数字を記入して下さい。

- ⑩ 定期的に医療機関を受診していますか？ →
- ⑪ 定期的に医療機関からもらう薬を内服していますか？ →
- ⑫ ご自宅に風邪薬は常備していますか？ →
- ⑬ 今後、あなたがちょっとした風邪（症状はあるが日常生活には支障がないくらい）をひいた時、すぐに受診しますか？

（あてはまる方に☑を付け矢印に従ってください。「受診」は医療機関の受付を行い、正規に医療機関にかかることをいいます）



質問2

あなたがちょっとした風邪をひいたとき、受診する理由について、あなたの考えに近いものをそれぞれ○で囲んでください。

	受診する理由	非常にあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	医師に診てもらうと安心だから	4	3	2	1
2	家族・友達に病院の受診を勧められるから	4	3	2	1
3	病院を受診した方が安いから	4	3	2	1
4	病院を受診すると早く治るから	4	3	2	1
5	医師から風邪の時には受診するよういわれているから	4	3	2	1
6	風邪をひいたら病院に行くものと思っているから	4	3	2	1
7	なんとなく受診した方がいい気がするから	4	3	2	1
8	インフルエンザ等の検査をしてもらいたいから	4	3	2	1

9	点滴・注射をしてほしいから	4	3	2	1
10	他の相談もできるから	4	3	2	1
11	そろそろ定期的にかかる時期だから	4	3	2	1
12	(風邪の) 根本治療をしてもらえるから	4	3	2	1
13	以前、市販薬で様子を見たらこじらせたことがあったから	4	3	2	1
14	薬局より病院の方が近いから	4	3	2	1
15	病院に勤務しているから	4	3	2	1
16	気軽に処方してもらえるから	4	3	2	1
17	仕事の合間に受診できるから	4	3	2	1
18	その他 ()	4	3	2	1

→質問3へお進みください

質問3

① あなたがちょっとした風邪をひいたとき、市販の風邪薬はお使いになりますか?

はい→質問5へお進みください

いいえ→以下の②へお進みください

② 上記で「いいえ」の方のみお答えください。

市販薬を使用しない理由についてあなたの考えに近いものをそれぞれ○で囲んで下さい。

No	市販薬を使用しない理由について	非常に あてはまる	あてはまる	あまりあて はまらない	あてはま らない
1	医師からの処方でない信用できないから	4	3	2	1
2	市販薬は効かないから	4	3	2	1
3	市販薬は有効な成分が少ない気がするから	4	3	2	1
4	家に適当な市販薬がないから	4	3	2	1
5	どの市販薬を選べばよいかわからないから	4	3	2	1
6	自分で選ぶのが面倒だから	4	3	2	1
7	どのように飲めばいいかわからないから	4	3	2	1
8	状態・症状に合ったものが見えるか心配だから	4	3	2	1
9	市販薬は体に合わないから	4	3	2	1
10	副作用が心配だから	4	3	2	1
11	他の薬と飲み合わせが心配だから	4	3	2	1
12	市販薬を使ったことがないから	4	3	2	1
13	以前、医療機関でもらった薬が余っているから	4	3	2	1
13	その他	4	3	2	1

()				
---	---	--	--	--	--

→質問4へお進みください

質問4

ちょっとした風邪をひいた患者さん（リスクや合併症がなく、高齢でない）から、すぐに受診した方がいいか聞かれたときに、どのようにお答えになりますか？あてはまる方に☑をつけ、次の質問へ進んでください。

すぐに受診せず、まずはセルフケア（医療機関にかからず、市販薬を使用することを含め、自分自身で対応を行う）を行うよう勧める。→質問6へお進みください

すぐに病院を受診するよう話す。→質問5へお進みください

質問5

すぐに受診を勧める理由についてあなたの考えに近いものをそれぞれ○で囲んで下さい。

No	すぐに受診を勧める理由について	非常にあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	医師からの処方でない信用できないから	4	3	2	1
2	市販薬は効かないから	4	3	2	1
3	市販薬は有効な成分が少ない気がするから	4	3	2	1
4	患者の家に適当な市販薬がない可能性があるから	4	3	2	1
5	どの市販薬を選べばよいか難しいから	4	3	2	1
6	自分で選ぶのは面倒だから	4	3	2	1
7	どのように飲めばいいかわからない可能性があるから	4	3	2	1
8	状態・症状に合ったものが見えないか心配だから	4	3	2	1
9	市販薬は体に合わないことがあるから	4	3	2	1
10	副作用が心配だから	4	3	2	1
11	他の薬と飲み合わせが心配だから	4	3	2	1
12	市販薬を使ったことがない可能性があるから	4	3	2	1
13	その他 ()	4	3	2	1

→質問7へお進みください

質問6

受診を勧めない理由を教えてください。

No	受診を勧めない理由について	非常にあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	風邪は休んでいればよくなるから	4	3	2	1

2	風邪を根本的に治す薬はないから	4	3	2	1
3	風邪は市販薬の対応で十分だから	4	3	2	1
4	病院に来ると他の感染症がうつることがあるから	4	3	2	1
5	病院で他の人にうつす可能性があるから	4	3	2	1
6	病院へ行くより休養を優先した方がいいから	4	3	2	1
7	日常生活の工夫（栄養・休養・睡眠等）の方が重要だから	4	3	2	1
8	受診するとコストがかかるから	4	3	2	1
9	医師や看護師の業務が忙しくなるから	4	3	2	1
10		4	3	2	1
13	その他 ()	4	3	2	1

→質問7へお進みください

質問7

SF-8（使用にライセンスが必要なため省略）

これでアンケートは終わりです。封筒に入れて受付にお出してください。
ご協力ありがとうございました

表1 調査対象となった看護師の基本属性

		n	%	平均
年齢				40.3±10.8歳
性別	男性	45	6.7	
	女性	622	93.7	
臨床経験年数				16.7±10.8年
勤務形態	常勤	617	7.0	
	非常勤	47	92.5	
	無回答	3	0.4	
資格	看護師	596		
	准看護師	41		
	保健師、助産師	30		
定期通院	あり	217	32.5	
	なし	447	67.0	
	無回答	3	0.4	
定期内服薬	あり	168	32.7	
	なし	495	67.3	
	無回答	4	0.6	
感冒常備薬の種類	1	190	28.5	
	2	111	16.6	
	3	51	7.6	
	4	3	0.4	
	5	4	0.6	
	6	1	0.1	
	7	1	0.1	
	なし	226	33.9	

図1 自ら感冒罹患時の対応

自ら感冒罹患時に医療機関を受診するか (n=667)

□受診しない ■受診する □無回答

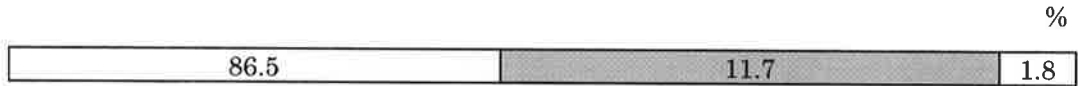


図2 自ら感冒罹患時に医療機関を受診する理由

■あてはまる □あてはまらない

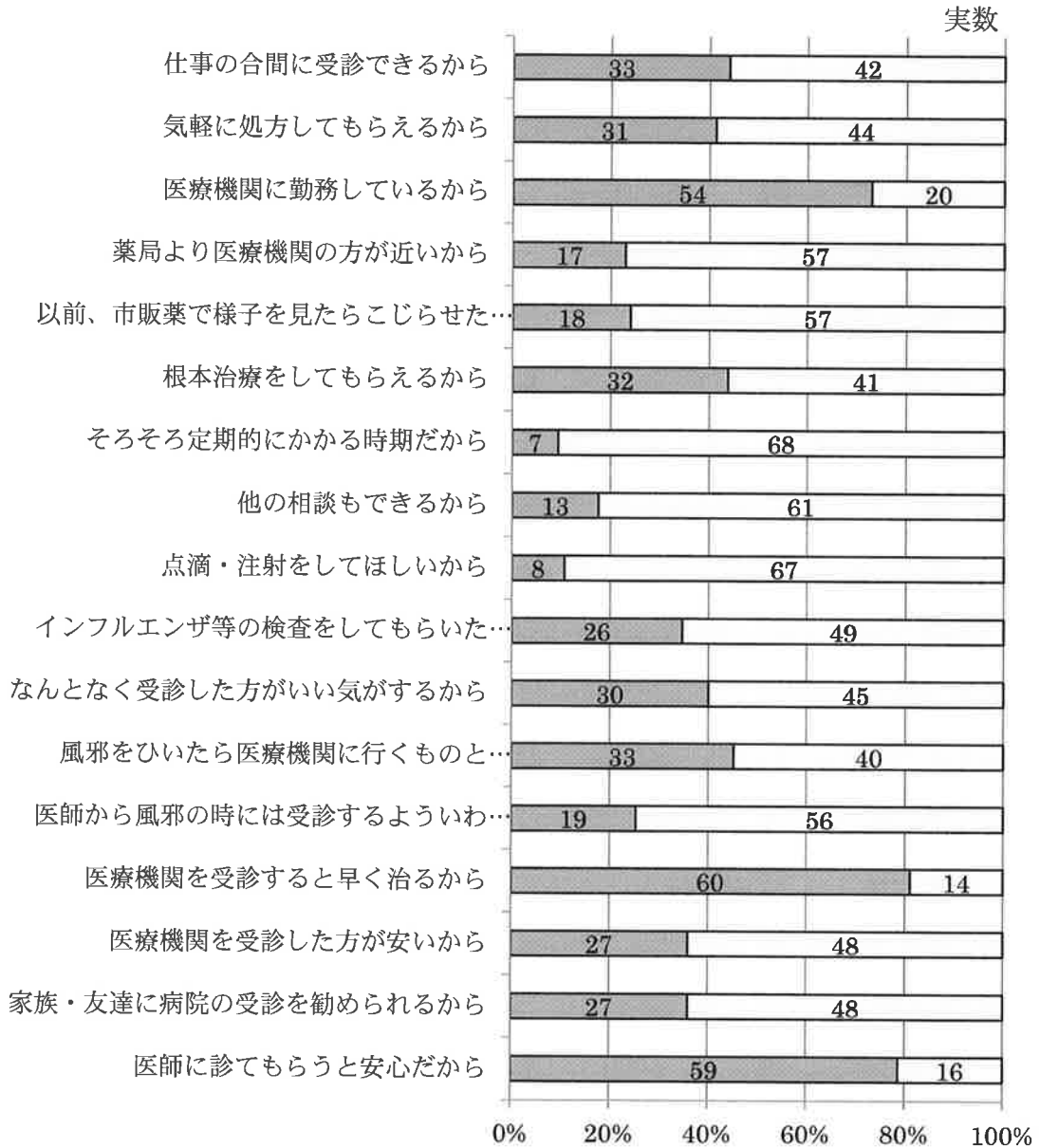


図3 自ら感冒にかかった際に市販薬を使用するか (n=667)

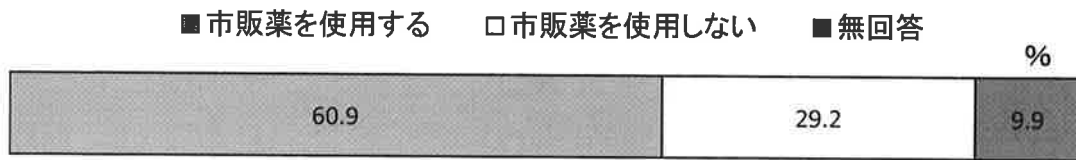


図4 自ら感冒にかかった際に市販薬を使用しない理由

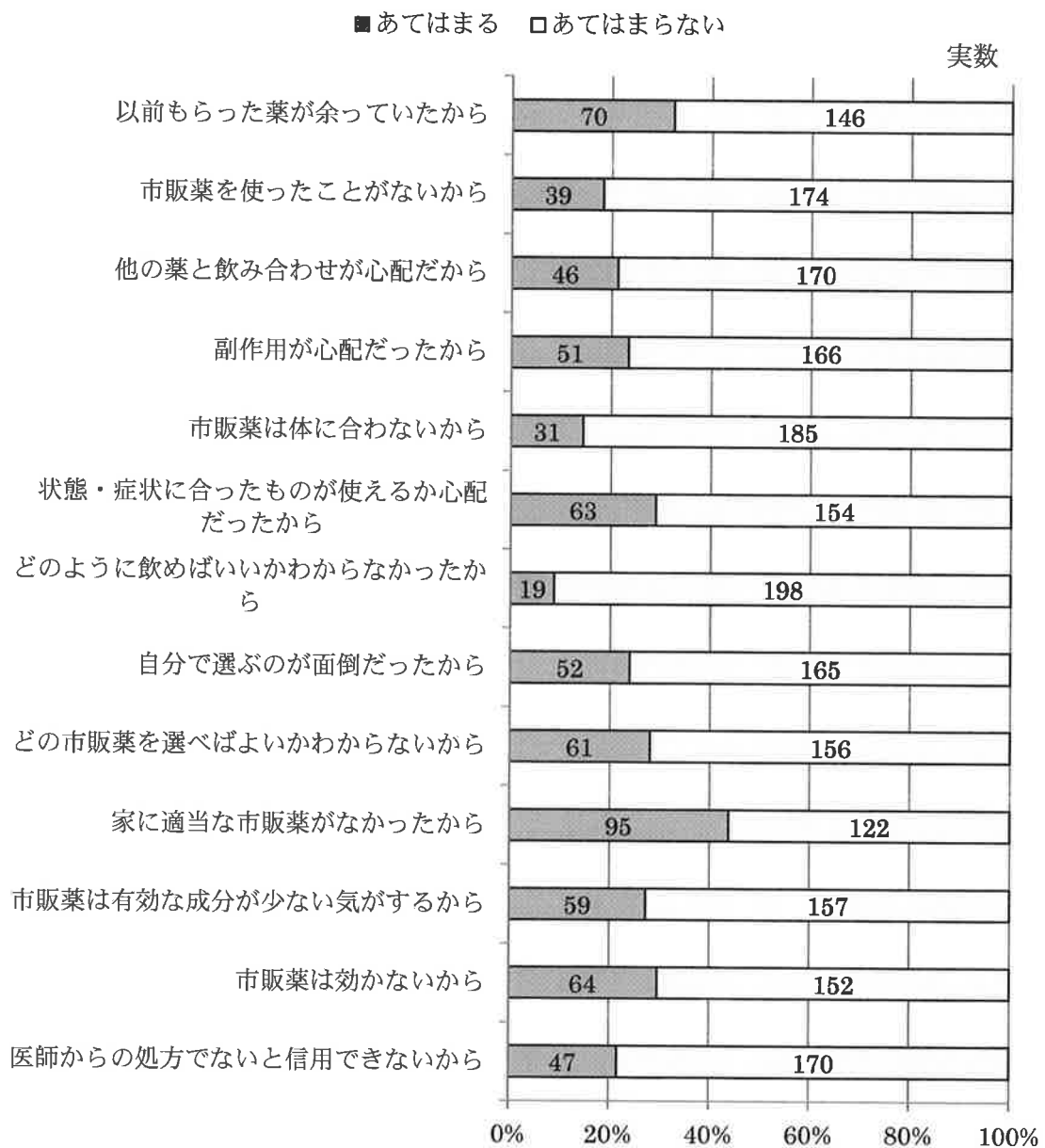


図5 感冒に罹患した患者へのアドバイス (n=667)



図6 感冒に罹患した患者へ すぐ受診を勧める理由

